

社会福祉法人グロー定款

昭和 4 2 . 4 . 1 制定

令和 7 . 4 . 1 改正

第 1 章 総則

(目的)

第 1 条 この社会福祉法人（以下「法人」という。）は、「生きることが光になる」「ほほえむちから」の理念を実現することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

(1) 第 1 種社会福祉事業

- ア 養護老人ホームの経営
- イ 救護施設の経営
- ウ 特別養護老人ホームの経営
- エ 障害者支援施設「滋賀県立むれやま荘」の管理・経営
- オ 障害児入所施設「滋賀県立信楽学園」の管理・経営

(2) 第 2 種社会福祉事業

- ア 老人デイサービス事業の経営
- イ 老人短期入所事業の経営
- ウ 障害福祉サービス事業の経営
- エ 一般相談支援事業の経営
- オ 特定相談支援事業の経営
- カ 障害児相談支援事業の経営
- キ 地域子育て支援拠点事業の経営
- ク 障害児通所支援事業
- ケ 認定就労訓練事業

(名称)

第 2 条 この法人は、社会福祉法人グローという。

(経営の原則等)

第 3 条 この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとする。

2 この法人は、法人のガバナンスを確保するために必要な内部管理体制の整備について、基本方針を理事会において定める。

(事務所の所在地)

第 4 条 この法人の事務所を滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 4 8 3 7 番地 2 に置く。

第 2 章 評議員

(評議員の定数)

第5条 この法人に評議員7名以上9名以内を置く。

(評議員の選任及び解任)

第6条 この法人に評議員選任・解任委員会を置き、評議員の選任及び解任は、評議員選任・解任委員会において行う。

- 2 評議員選任・解任委員会は、職員2名、外部委員1名の合計3名で構成する。
- 3 選任候補者の推薦及び解任の提案は、理事会が行う。評議員選任・解任委員会の運営についての細則は、理事会において定める。
- 4 選任候補者の推薦及び解任の提案を行う場合には、当該者が評議員として適任及び不適任と判断した理由を委員に説明しなければならない。
- 5 評議員選任・解任委員会の決議は、委員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。ただし、外部委員が出席し、かつ、外部委員が賛成することを要する。

(評議員の任期)

第7条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

- 2 任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとすることができる。
- 3 評議員は、第5条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

(評議員の報酬等)

第8条 評議員に対して、各年度の総額が300,000円を超えない範囲で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を、報酬として支給することができる。

第3章 評議員会

(構成)

第9条 評議員会は、全ての評議員をもって構成する。

- 2 評議員会に議長を置く。
- 3 議長は、その都度評議員の互選で定める。

(権限)

第10条 評議員会は、次の事項について決議する。

- (1) 理事及び監事の選任又は解任
- (2) 理事及び監事の報酬等の額
- (3) 理事及び監事並びに評議員に対する報酬等の支給の基準
- (4) 計算書類(貸借対照表及び収支計算書)及び財産目録の承認
- (5) 定款の変更

- (6) 残余財産の処分
- (7) 基本財産の処分
- (8) 社会福祉充実計画の承認
- (9) その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項
(開催)

第11条 評議員会は、定時評議員会として毎会計年度終了後3ヶ月以内に1回開催するほか、必要がある場合に開催する。

(招集)

第12条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

2 評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

(決議)

第13条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の3分の2以上に当たる多数をもって行わなければならない。

- (1) 監事の解任
- (2) 定款の変更
- (3) その他法令で定められた事項

3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第15条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

4 第1項及び第2項の規定にかかわらず、評議員（当該事項について議決に加わることができるものに限る）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、評議員会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第14条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 議長及び会議に出席した評議員のうちから選出された議事録署名人2名がこれに署名し又は記名押印する。

第4章 役員及び職員

(役員の数)

第15条 この法人には、次の役員を置く。

- (1) 理事 6名以上8名以内

(2) 監事 2名

2 理事のうち1名を理事長とする。

3 この法人に必要な応じて、理事長以外の理事4名以内を、社会福祉法第45条の16第2項第2号の業務執行理事とすることができる。

4 この法人に必要な応じて、業務執行理事のうち1名を専務理事とすることができる。

(役員を選任)

第16条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

2 理事長・業務執行理事及び専務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

(理事の職務及び権限)

第17条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行し、業務執行理事は、理事会において別に定めるところにより、理事長を補佐し、この法人の業務を分担執行する。

3 専務理事は、理事長の命をうけ専ら法人の事業企画及び渉外業務を担当し、報酬等は、評議員会において別に定める常勤役員の報酬等の額によるものとする。

4 理事長及び業務執行理事は、毎会計年度に4月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第18条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2 監事は、いつでも、理事及び職員に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員任期)

第19条 理事又は監事の任期は、選任後2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとすることができる。

3 理事又は監事は、第15条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

第20条 理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

(1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。

(2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(役員報酬等)

第21条 理事及び監事に対して、評議員会において別に定める総額の範囲内で、

評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。

(職員)

第22条 この法人に、職員を置く。

2 この法人の設置経営する施設の長他の重要な職員(以下「施設長等」という。)は、理事会において、選任及び解任する。

3 施設長等以外の職員は、理事長が任免する。

第5章 運営協議会

(運営協議会の設置)

第23条 この法人に、運営協議会を置く。

(運営協議会の委員の定数)

第24条 運営協議会の委員は3名以上とする。

(運営協議会の委員の選任)

第25条 運営協議会の委員は、各号に掲げる者から理事長が選任する。

(1) 地域の代表者

(2) 利用者又は利用者の家族の代表者

(3) その他理事長が適当と認める者

(運営協議会の委員の定数の変更)

第26条 法人が前々条に定める定数を変更しようとするときは、運営協議会の意見を聴かなければならない。

(意見の聴取)

第27条 理事長は、必要に応じて、運営協議会から、地域や利用者の意見を聴取するものとする。

(その他)

第28条 運営協議会については、この定款に定めのあるもののほか、別に定めるところによるものとする。

第6章 理事会

(構成)

第29条 理事会は、全ての理事をもって構成する。

2 理事会に議長を置く。

3 議長はその都度理事の互選で定める。

(権限)

第30条 理事会は、次の職務を行う。ただし、日常の業務として理事会が定めるものについては理事長が専決し、これを理事会に報告する。

- (1) この法人の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 理事長・業務執行理事及び専務理事の選定及び解職

(招集)

第31条 理事会は、理事長が招集する。

2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。

(決議)

第32条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、理事（当該事項について議決に加わることができないものに限る）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき（監事が当該提案について異議を述べたときを除く。）は、理事会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第33条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 会議に出席した理事長及び監事は、議事録に署名し、又は記名押印する

第7章 資産及び会計

(資産の区分)

第34条 この法人の資産は、これを分けて基本財産、その他財産及び公益事業用財産の3種とする。

- 2 基本財産は、別紙基本財産一覧表の財産をもって構成する。
- 3 その他財産は、基本財産及び公益事業用財産以外の財産とする。
- 4 公益事業用財産は、第42条に掲げる公益を目的とする事業の用に供する財産とする。
- 5 基本財産に指定されて寄附された金品は、速やかに第2項に掲げるため、必要な手続をとらなければならない。

(基本財産の処分)

第35条 基本財産を処分し、又は担保に供しようとするときは、理事会及び評議員会の承認を得て、滋賀県知事の承認を得なければならない。ただし、次の各号に掲げる場合には、滋賀県知事の承認は必要としない。

- (1) 独立行政法人福祉医療機構に対して基本財産を担保に供する場合
- (2) 独立行政法人福祉医療機構と協調融資（独立行政法人福祉医療機構の福祉貸付が行う施設整備のための資金に対する融資と併せて行う同一の財産

を担保とする当該施設整備のための資金に対する融資をいう。以下同じ。)に関する契約を結んだ民間金融機関に対して基本財産を担保に供する場合(協調融資に係る担保に限る。)

(資産の管理)

第36条 この法人の資産は、理事会の定める方法により、理事長が管理する。

2 資産のうち現金は、確実な金融機関に預け入れ、確実な信託会社に信託し、又は確実な有価証券に換えて、保管する。

(事業計画及び収支予算)

第37条 この法人の事業計画書及び収支予算書については、毎会計年度開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

2 前項の書類については、主たる事務所に、当該会計年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(事業報告及び決算)

第38条 この法人の事業報告及び決算については、毎会計年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

(1) 事業報告

(2) 事業報告の附属明細書

(3) 貸借対照表

(4) 収支計算書(資金収支計算書及び事業活動計算書)

(5) 貸借対照表及び収支計算書(資金収支計算書及び事業活動計算書)の附属明細書

(6) 財産目録

2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号、第4号及び第6号の書類については、定時評議員会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については、承認を受けなければならない。

3 第1項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(1) 監査報告

(2) 理事及び監事並びに評議員の名簿

(3) 理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記載した書類

(4) 事業の概要等を記載した書類

(会計年度)

第39条 この法人の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終わる。

(会計処理の基準)

第40条 この法人の会計に関しては、法令等及びこの定款に定めのあるもののほか、理事会において定める財務会計規程により処理する。

(臨機の措置)

第41条 予算をもって定めるもののほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事総数の3分の2以上の同意がなければならない。

第8章 公益を目的とする事業

(種別)

第42条 この法人は、社会福祉法第26条の規定により、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することなどを目的として、次の事業を行う。

- (1) 居宅介護支援事業
- (2) 生活管理指導短期宿泊事業の受託
- (3) 地域ケアシステム推進事業の受託
- (4) 障害者の文化・芸術促進事業
- (5) アール・ブリュットの推進に関する事業
- (6) 滋賀県高次脳機能障害者支援センターの受託
- (7) 滋賀県地域生活定着支援センターの受託
- (8) 滋賀県発達障害者支援センターの受託
- (9) 自立準備ホームの受託
- (10) 甲賀市湖南市障がい者基幹相談支援センターの受託
- (11) 住宅確保要配慮者居住支援事業

2 前項に掲げるものの他、福祉施策等の調査・研究及び先駆的事业等を行う。

3 前2項の事業の運営に関する事項については、理事総数の3分の2以上の同意を得なければならない。

第9章 解散及び合併

(解散)

第43条 この法人は、社会福祉法第46条第1項第1号及び第3号から第6号までの解散事由により解散する。

(残余財産の帰属)

第44条 解散(合併又は破産による解散を除く。)した場合における残余財産は、評議員会の決議を得て、社会福祉法人のうちから選出されたものに帰属する。

(合併)

第45条 合併しようとするときは、理事総数の3分の2以上の同意を得て、かつ、評議員総数の3分の2以上の同意を得て滋賀県知事の認可を受けなければならない。

第10章 定款の変更

(定款の変更)

第46条 この定款を変更しようとするときは、評議員会の決議を得て、滋賀県知事の認可（社会福祉法第45条の36第2項に規定する厚生労働省令で定める事項に係るものを除く。）を受けなければならない。

2 前項の厚生労働省令で定める事項に係る定款の変更をしたときは、遅滞なくその旨を滋賀県知事に届け出なければならない。

第11章 公告の方法その他

(公告の方法)

第47条 この法人の公告は、社会福祉法人グローの掲示場に掲示するとともに、官報、新聞又は電子公告に掲載して行う。

(施行細則)

第48条 この定款の施行についての細則は、理事会において定める。

附則

この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。ただし、この法人の成立後遅滞なく、この定款に基づき、役員を選任を行うものとする。

(ア) 理事

| | |
|------|--------|
| 理事長 | 野崎欣一郎 |
| 副理事長 | 河内義明 |
| 常務理事 | 東 信一 |
| 理事 | 福谷三郎兵衛 |
| 同 | 樋口恒男 |
| 同 | 辻村喜三郎 |
| 同 | 岡野きく |
| 同 | 岳 直偉 |
| 同 | 廣野 寛 |
| 同 | 石原 即昭 |

(イ) 監事

| | |
|----|-------|
| 監事 | 和田純一 |
| 同 | 橋田喜一郎 |

付則

この定款は厚生大臣の認可のあった日から施行し、この改正による改正後の社会福祉法人滋賀県社会福祉事業団定款第3条第1項（1）ア及び同条同項（2）アの規定は昭和55年11月1日から適用する。

付則

この定款は厚生大臣の認可のあった日から施行し、この改正による改正後の社会福祉法人滋賀県社会福祉事業団定款第3条第2項（1）の規定は昭和61年8月1日から適用する。

付則

この定款は所轄庁の認可の日から施行し、この改正による改正後の社会福祉法人滋賀県社会福祉事業団定款第3条第2項の規定は昭和62年4月1日から適用する。

付則

この定款は滋賀県知事の認可のあった日から施行し、この改正による改正後の社会福祉法人滋賀県社会福祉事業団定款は、昭和63年4月1日から適用する。

付則

この定款は滋賀県知事の認可のあった日から施行し、この改正による改正後の社会福祉法人滋賀県社会福祉事業団定款は、昭和63年10月1日から適用する。

付則

この定款は滋賀県知事の認可のあった日から施行し、この改正による改正後の社会福祉法人滋賀県社会福祉事業団定款は、平成2年4月1日から適用する。

付則

この定款は滋賀県知事の認可のあった日から施行し、この改正による改正後の社会福祉法人滋賀県社会福祉事業団定款は、平成3年1月1日から適用する。

付則

この定款は滋賀県知事の認可のあった日から施行し、この改正による改正後の社会福祉法人滋賀県社会福祉事業団定款は、平成4年4月1日から適用する。

付則

この定款は滋賀県知事の認可のあった日から施行し、この改正による改正後の社会福祉法人滋賀県社会福祉事業団定款は、平成5年4月1日から適用する。

付則

この定款は滋賀県知事の認可のあった日から施行し、この改正による改正後の社会福祉法人滋賀県社会福祉事業団定款は、平成6年4月1日から適用する。

付則

この定款は滋賀県知事の認可のあった日から施行し、この改正による改正後の社会福祉法人滋賀県社会福祉事業団定款は、平成7年4月1日から適用する。

付則

この定款は滋賀県知事の認可のあった日から施行し、この改正による改正後の社会福祉法人滋賀県社会福祉事業団定款は、平成7年7月1日から適用する。

付則

この定款は滋賀県知事の認可のあった日から施行し、この改正による改正後の社会福祉法人滋賀県社会福祉事業団定款は、平成9年4月1日から適用する。

付則

1 この定款は滋賀県知事の認可のあった日から施行し、この改正による改正後の社会福祉法人滋賀県社会福祉事業団定款は、平成10年6月1日から適用す

る。

- 2 この定款の施行の際、現にある社会福祉法人滋賀県社会福祉事業団財務会計規程（昭和54年4月1日制定）は、改正後の第20条の2に規定する理事会において定める財務会計規程とみなす。

付則

この定款は滋賀県知事の認可のあった日から施行し、この改正による改正後の社会福祉法人滋賀県社会福祉事業団定款は、平成11年4月1日から適用する。

付則

この定款は滋賀県知事の認可のあった日から施行し、この改正による改正後の社会福祉法人滋賀県社会福祉事業団定款は、平成12年4月1日から適用する。

付則

この定款は、平成13年4月1日から施行する。

付則

この定款は、平成14年4月1日から施行する。

付則

この定款は、平成15年4月1日から施行する。

付則

この定款は、平成17年4月1日から施行する。

付則

この定款は、平成18年4月1日から施行する。

付則

この定款は、平成18年10月1日から施行する。

付則

この定款は、平成19年4月1日から施行する。

付則

この定款は、平成20年4月1日から施行する。

付則

この定款は、平成20年5月27日から施行する。

付則

- 1 この定款は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 平成21年3月23日付けの定款変更の認可申請に伴い設置された評議員会の評議員の任期は、第13条の6の規定にかかわらず、平成23年3月31日までとする。

付則

この定款は、平成22年1月1日から施行する。

付則

この定款は、平成22年10月1日から施行する。

付則

この定款は、平成23年4月1日から施行する。

付則

この定款は、平成23年5月27日から施行する。

付則

この定款は、平成24年4月1日から施行する。

付則

この定款は、平成24年5月29日から施行する。

付則

この定款は、平成24年10月31日から施行する。

付則

この定款は、平成25年4月1日から施行する。

付則

この定款は、平成25年4月21日から施行する。

付則

この定款は、平成26年4月1日から施行する。

付則

この定款は、平成26年7月10日から施行する。

付則

この定款は、平成26年8月29日から施行する。

付則

この定款は、平成27年3月27日から施行する。

付則

この定款は、平成27年11月11日から施行する。

付則

この定款は、平成28年7月13日から施行する。

付則

この定款は、平成28年12月16日から施行する。

付則

この定款は、平成29年4月1日から施行する。

付則

この定款は、平成29年12月25日から施行する。

付則

この定款は、平成31年4月1日から施行する。

付則

この定款は、令和3年1月22日から施行する。

付則

この定款は、令和3年4月1日から施行する。

付則

この定款は、令和4年7月1日から施行する。

付則

この定款は、令和5年4月1日から施行する。

付則

この定款は、令和6年4月1日から施行する。

付則

この定款は、令和7年4月1日から施行する。